



二葉幼稚園

# 園のたより

2022年



年間主題 つながって ～今 わたしを生きる～



## 4月の聖句

わたしのたすけはくる  
てんちをつくられた しゅのもとから

詩編121篇1～2節 (2節)

## 4月のさんびか

ちいさい おてて

ようじさんびか5



## はじめの一步



年長ひかり組さん(35名)、年中すみれ組さん(34名)、ご進級おめでとうございます！

転入園の皆さまも、ようこそ、二葉幼稚園へ！

年少ことり組さん(18名)、つくし組さん(17名)、ご入園おめでとうございます！

ご家族の皆さま、お子さまのご入園、ご進級おめでとうございます。

教職員にも新しい仲間を迎え、新たなスタートです。先日、担任を中心に今年度最初の職員会を持ちました。そこで、キリスト教保育といえど、思いつまま言葉を出し合ってみました。

皆さまは、どんなイメージや言葉が浮かびますか？出てきたのは、あったかい・小さい頃の願いと繋がるようなお祈り(他者の思いを知り、共感できる喜び)・イエスさま・神さまを身近に感じる・受け止める・見守られている・護られてる・赦し・讃美歌にパワーをもらう・日々当たり前と思っていたことが当たり前じゃなく、お祈りの中で感謝の思いに気づく、など。メンバーの殆どは二葉幼稚園に就職して初めてキリスト教に出会った先生達。これらは日々の祈りを通し、神さまを身近に感じながら、子ども達や保護者の皆さまとご一緒に歩む中で、各々が感じたイメージなのでしょう。

毎月、子ども達はその月の聖書の言葉に触れ、こうかな、ああかな、と感じることを伝えあい、クラス毎に深めていきます。最初はポッカ～ン？それでいいのです。大人でも、なかなか理解が難しい言葉もあります。そこは牧師先生のお話を聴いたり、質問をしたり、と、また交流につながっていくのですね。大切なのは、「～と思うよ」「～じゃない？」色々な感じ方や考えを知ること、伝え合うこと。その中心に神さまがいてくださるのではないのでしょうか。

世界は今、暗闇の中にいます。春は花々が咲き匂い、新緑が眩しく、風はさわやか、お日様はポカポカと心地よいのに、一方で言葉では言い表せない思いを抱えている人が大勢います。

生まれ育った故郷から離れなければならない人々、想像を絶する恐怖を抱えながら動けない人々もいます。その現状を見聞きしながら、多くの人が、今在る場所で何をなすべきか、何ができるのかと考えあぐね、なかなか答えが見いだせない現実や、中には共感疲労を感じることもあるでしょう。

まずは、目の前にいる子ども達、ご家族、身近にいる方々と今日出会えた喜びを分かち合う。二葉から子ども達の笑顔が世界中へとつながるように、はじめの一步を踏み出したいと思います。

「あさになったので まどをあけますよ」(荒井良二/作 2011/12 偕成社)という絵本があります。深く心に響く一冊。是非手に取ってみてください。「あさになったので まどをあけますよ やまはやっぱりそこにいて きはやっぱりここにいる だからぼくはここがすき」(本文より)どんな時にも、誰にでも訪れる朝・・・。

新たな朝陽をあび、子ども達も皆さまも、いま、わたしを生きることが出来ますように・・・。【園長】